

令和5年5月19日

令和5年度 府中市立四谷小学校 学校経営計画

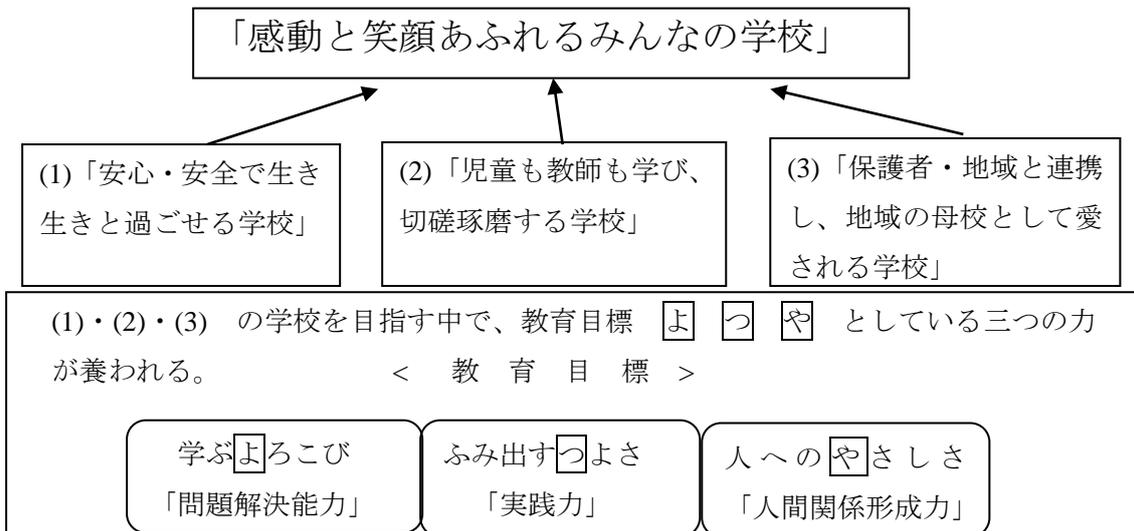
府中市立四谷小学校

校長 山中 慈子

1. 目指す学校

学校は子どものためにある。自ら夢をもち、心豊かにたくましく生きていく子どもを育てたい。そのために、一人一人に確かな学力を育み、自分の目標に向かって粘り強く取り組む態度を育て、互いのよさを認めて豊かな人間関係を築き、心が動く感動と笑顔あふれる学校づくりを行う。常に教職員は、児童を認め、褒め、励まし、自らも笑顔を忘れずに接していく。

このような考えに基づき、府中市立四谷小学校の子どもたちの健やかな成長のために、経営理念を「感動と笑顔あふれるみんなの学校」とし、児童・保護者・教職員・地域にとって、温かく、誇りをもてる母校となるべく、教育目標の具現化を図り、学校経営を行う。



2. 中期的目標と方策

新学習指導要領を踏まえ、以下のことを行う。(→は、3.に対応)

(1) 「安心・安全で生き生きと過ごせる学校」づくり

- ① 道徳教育の充実及び全教育活動を通して、豊かな心を培う →ア
- ② 健康への意識を高める。 →イ
- ③ 社会生活上のルールを理解し、実践するとともに安全教育の充実を図る。→ウ

(2) 「児童も教師も学び、切磋琢磨する学校」づくり

- ① 基礎的な知識の定着と学習意欲の向上を図る。 →エ
- ② 課題を解決する力の向上を図る。 →オ
- ③ 社会の変化への対応力を高める。 →カ

(3) 「保護者・地域と連携し、地域の母校として愛される学校」づくり

- ① 家庭教育の充実を図る。 →キ

- ② 保護者への支援を充実する。 →ク
- ③ 地域との連携を推進する。 →ケ

### 3. 今年度の取組目標と方策

#### (1) 教育活動の目標と方策

- ア○全教育活動を通して、生命尊重の心や自尊感情・自己肯定感、互いを尊重し合う態度を育み、人権意識を高める。
  - 特別支援教育の充実を図る。個のニーズに応じた支援体制を関係諸機関との連携のもとに行う。いじめ、不登校問題に組織的に対応していく。
- イ○体力向上委員会を中心に、年間の体育的行事や活動及びコーディネーショントレーニングを取り入れた運動などで運動する習慣づくりを計画、実行する。
  - 性教育や薬物乱用教室、食育を通して生活にかかわる知識を深める。
- ウ○学校だよりや朝会、ヨツヤキッズセブンを活用し、あいさつなどの学校での規則正しい生活習慣の確立を図る。
  - セーフティ教室や情報モラル教育、防災教育を通し、自他共に安全に過ごす意識を高め、実践に結び付くようにする。
- エ○学力調査及び算数少人数指導やクロームブックの活用、繰り返し学習などを通して基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
  - 外国語教育の充実、ICT や教材の工夫、ユニバーサルデザイン等を通して、学習意欲の向上を図る。
  - ICT を活用した授業づくり、環境づくりを進め、教員の授業力向上を図る。
- オ○全教育活動を通じて言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を行い、課題解決力の向上を図る。
  - 教員の校内研究の主題を読解力の向上とし、国語科を中心とした読解力の育成を図る。
  - 読書環境を更に整備し、委員会活動や保護者との連携等を通して読書に親しむ活動の充実を図る。
  - 教員が指導教諭による授業等、都や市の研修・研究協力校等制度を積極的に活用できるよう年間計画に組み、促していく。
  - 第八中学校や同校学区の小学校と情報交換しながら、育てる子供像を共有化し、小中連携、一貫教育の一層の推進と充実を図る。
  - 教員の職層に応じた役割をより明確にし、OJT の更なる充実を図る。
- カ○校外学習や宿泊行事、特別活動及び環境教育を通して、社会規範や創意工夫する実践力を身につける。
  - 校務分掌や教育計画を見直し、教育委員会と連携してより良い体制を構築するとともに、学校経営支援員や副校長等校務改善支援員を計画的効果的に活用して学校の組織力を更に高め、働き方を改革していく。

- 高学年においては一部教科担任制、全学年では道徳の交換授業を行い、児童がより多くの教員から学ぶ機会を増やすとともに、教員の更なる授業力の向上を図る。
- キ○ICT を活用した家庭学習の提示や学級・学年での取組を通して、家庭教育の充実を図る。
- ク○PTA と連携し、PTA 関連事業等を生かして家庭との連携を深める。
  - 子育て支援施設や事業を随時紹介するなど、外部機関との連携を図る。
- ケ○多摩川を中心とした環境教育や稲作、芝生の活用などを通しての地域の方々との交流、社会福祉協議会と連携した地域のボランティア団体との協同作業、よつや円地域の教育資源を生かし、地域学習の活性化を図り、「ふるさと」府中への愛着を深める。
  - スクールコミュニティ協議会を各学期に 1 回開催し、地域コーディネーターや地域人材の活用を推進し、地域との連携を更に深める。
  - 令和 3、4 年度に引き続き、令和 4 年度も「府中のまち クリエーターノート」の検証校として地域人材を生かした学習に取り組む。

## (2) 重点目標と方策

- 教員の校内研究の主題を読解力の向上とし、国語科を中心とした読解力の育成を図り、3 学期には各学年に応じた読み取りに関するキーワードを児童が理解できるようにし、基礎学力の向上を図る。
- ICT を活用した授業づくり、環境づくりを学期ごとの観察授業を中心に更に進め、教員の授業力向上を図る。
- 体力向上委員会を中心に、年間の体育的行事や活動及びコーディネーショントレーニングを取り入れた運動などを計画的に児童へ指導し、体力向上を図る。
- 人権作文の取組や道徳の授業において、人権について学習して考える時間を意図的に設け、人権意識を高める。
- 年間を通して学校だよりや全校朝会、映像による集会等を活用し、「四谷小の子供(ヨツヤキッズセブン)」(生活の心得)を浸透させることで、あいさつなど学校での規則正しい生活習慣の確立を図る。
- 令和 6 年度の周年行事に向けて、保護者や地域と密に連絡を取り、ともに活動していく中で、地域との繋がりをより深めていく。